

【ブラジル移民の方々に、その苦労の心情を綴った詞を届けたい】

私の母は、小学生の頃にテレビで観たブラジル移民の船「笠戸丸」の話に夢を抱き、大人になったらブラジルに行くという夢を持ちました。

そして母は父と結婚し、父の仕事の転勤でブラジルに移住することが決まり、ブラジル行きの夢は叶えることができました。

しかし、実際にブラジルの移民館を訪れてみると、幼いころに描いていた夢とはまったく違う、過酷な日系移民の暮らしを目の当たりにしました。その衝撃はあまりにも大きく、こんどは移民の方々の壮絶な生き様や故郷を偲んだ思いを何とか後世に伝えることはできないかと考えるようになりました。

そして母は70歳を迎え、当時の衝撃と胸に秘めていた思いを、長年勉強した作詞家レッスンの集大成として、詞のかたちで残すことにしました。

日本人移民110周年を迎える2018年に、この詞が現地の移民館にプレートとして飾られたら、それを多くの移民のご子孫の方々が見てくださったら、皆様のおじいちゃんやおばあちゃんの望郷の思いは、日本にきちんと届いていることを感じただけなのではないかと夢見ています。

こちらが移民の皆様の心情を綴った詞「夢の故郷」です。

夢の故郷

荒波蹴散らし 大海原へ

夢と希望の 笠戸丸

これが最後か 見納めか

桜咲く国 富士の山

忘れまい 忘れまい 涙でかすむ

ああ 愛しき日本 我が故郷

夢を抱いて ブラジルの空

くじける心に むちを打つ

くわを持つ手に 染み付いた

汗と涙の 人生も

いつの日か いつの日か 帰る夢見る

ああ 愛しき日本 我が故郷

時は流れて 幾年過ぎた

昔をしのぶ 資料館

夢のかけはし 愛の橋

熱い心で 思い出す

いつまでも いつまでも 遠く遙かな

ああ 愛しき日本 我が故郷